

稲作技術情報（幼穂形成期以降の低温対策）

令和元年7月17日(水)
福島県相双農林事務所農業振興普及部

気温の低い日が続いており、今後も低温傾向が続く見込みです。
稲は幼穂形成期を迎え、低温に弱い時期に入っています。
幼穂を低温から保護するため、深水管理を徹底しましょう！！
また、いもち病の発生に注意し、防除を徹底しましょう！！

1 低温・日照不足に関する全般気象情報発令

(令和元年7月8日 気象庁発表)

北・東日本太平洋側の日照不足と低温に関する全般気象情報(第1号)が発令されました。
北・東日本太平洋側では、6月28日頃から前線や湿った空気の影響を受けやすく、日照時間は平年の50%を下回っている所があります。

この状態は今後2週間程度は続く見込みです。

また、オホーツク海高気圧からの湿った空気の影響を受けやすく、今後2週間程度は気温の低い状態が続き、かなり低くなる所がある見込みです。

農作物の管理に十分注意してください。

2 7月の気温の経過

7月に入ってから、最低気温が17℃を下回る日が続き、また日照時間も少ない日が続いています。

表1 本年7月の日毎の気象データ(福島地方気象台HP)

日	相馬アメダス				飯舘アメダス			
	気温(℃)			日照時間(時間)	気温(℃)			日照時間(時間)
	平均	最高	最低		平均	最高	最低	
1	20.9	25.0	18.5	1.6	20.8	26.0	16.8	2.4
2	23.0	28.1	19.3	0.8	20.5	26.1	16.3	1.1
3	21.6	26.0	17.7	7.1	19.8	25.0	14.2	5.0
4	20.6	23.9	18.7	2.3	18.3	22.1	16.2	2.6
5	20.3	22.9	17.8	0.5	17.7	21.2	15.7	0.0
6	19.1	20.4	17.9	0.0	16.7	18.2	15.6	0.0
7	17.7	18.7	16.3	0.0	14.9	15.9	13.5	0.0
8	17.3	19.1	15.7	0.0	13.5	15.2	12.6	0.0
9	17.4	19.2	16.0	0.0	13.8	15.2	13.1	0.0
10	17.7	20.6	14.1	0.6	14.6	17.4	12.8	0.3
11	18.3	21.0	14.4	2.1	15.6	19.2	11.1	1.9
12	19.3	21.6	17.4	0.0	18.1	22.4	15.0	0.1
13	22.0	26.5	17.9	8.8	20.3	26.0	15.9	4.3
14	19.9	20.7	19.3	0.0	18.1	19.2	16.7	0.0

3 現在の水稻の生育ステージ

出穂の早い品種ではすでに幼穂形成期になっており、低温に弱い時期となっています。低温から幼穂を保護するための水管理と病害の防除が必要です。

品 種	年 次 月 / 日	幼穂形成 始期	幼穂 形成期	出穂始	出穂期
ひとめ ぼ れ	本年	7/07	7/09		
	前年	7/04	7/08	7/26	7/28
	平年	7/06	7/09	7/28	7/30
	平年差	1日遅	0		
天 の つ ぶ	本年	7/07	7/10		
	前年	7/06	7/08	7/28	7/30
	平年	7/06	7/09	7/30	8/01
	平年差	1日遅	1日遅		
コ シ ヒ カ リ	本年				
	前年	7/12	7/15	8/03	8/05
	平年	7/14	7/17	8/05	8/07
	平年差				

※県農業総合センター浜地域研究所（相馬市成田）水稻作柄概況解析試験ほの調査結果。

4 今後の技術対策

(1) 低温対策 ～ 幼穂を保護するための「深水管理」～

- ・幼穂形成期から出穂開花期にかけては、低温(17℃以下)に弱い時期です。特に減数分裂期(出穂10日～15日前)は障害不稔の発生等、直接収量に及ぼす影響が大きく、最も危険です。
- ・幼穂形成期とその後の減数分裂期に2回目の冷温に遭遇すると被害は増大します。
- ・幼穂形成期から保温的な水管理を行いましょう(前歴保温効果)。

●目標水深 幼穂形成期:10cm以上 減数分裂期:15cm以上

(2) いもち病防除(薬剤防除)

1) 葉いもち防除 ～ほ場を確認して速やかな防除徹底で葉いもちで食い止めましよう!～

- ・田植え時にいもち病用箱施用剤を使用していない場合や、昨年葉いもち病が発生したほ場では、特に早めに葉いもちの予防薬剤を速やかに散布してください。
- ※いもち防除箱施用剤を使用したほ場も、見回って発生の有無を確認してください。
- ・葉いもちの発生を確認したら、速やかに薬剤防除して穂いもちへの移行を予防しましょう。

2) 穂いもち防除 ～出穂までに葉いもちの防除徹底～

- ・粒剤を使用する場合は、適期に水面施用と散布後の止め水管理を徹底しましょう。
- ・散布剤を使用する場合は、穂ばらみ末期とその7～10日後に防除しましょう。

表3 いもち病防除薬剤の例

農薬名	使用時期	使用方法・散布量	使用回数
オリゼメート粒剤	●葉いもちには、初発10日前～初発時 ●穂いもちには、出穂3～4週間前まで(収穫14日前まで)	散布・3～4kg/10a	2回以内
コラトップ粒剤5	●葉いもちには、初発10日前～初発時 ●穂いもちには、出穂30日前～5日前まで	散布・3～4kg/10a	2回以内
コラトップジャンボP	●葉いもちには、初発20日前～初発時 ●穂いもちには、出穂30日前～5日前まで	小包装(パック)のまま投げ入れる・小包装(パック)10～13個(500g～650g)/10a	2回以内